

本セミナーでは、動物実験代替手法として創薬分野で急速に普及する MPS (Microphysiological Systems / 生体模倣システム) をテーマに、業界の最重要課題である「細胞・組織の標準化」について掘り下げます。
MPS の実用化・定着に向けては、機器やプレートの規格化にとどまらず、品質管理や均一性の維持が難しい細胞やオルガノイド組織の標準化が急務となっています。世界の生物資源バンクを牽引し、MPS 領域の標準化をリードする American Type Culture Collection (ATCC) と、日本の MPS 研究における第一人者である伊藤先生をお迎えし、国内外の最新動向と具体的な取り組みをご紹介します。

日時

2026年 10月13日(火) 14:30 ~ 17:00

※タイムスケジュールは弊社HPに掲載 URL: <https://www.summitpharma.co.jp/japanese/service/alliance/index.html>

場所

住商ファーマインターナショナル株式会社 東京本社 16 階 共通会議室
東京都千代田区一ツ橋一丁目2番2号 住友商事竹橋ビル
東京メトロ東西線 竹橋駅徒歩1分
東京メトロ半蔵門線 / 都営三田線 / 都営新宿線 神保町駅より徒歩5分
<https://www.summitpharma.co.jp/japanese/about/access/>



講演

1

The Biological Foundation of Microphysiological Systems (MPS): Why Quality Matters



Dr. Carolina Lucchesi

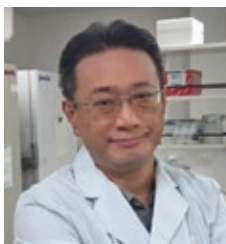
ATCC Head of MPS, Organoids, Organ-on-Chip and Advanced In Vitro Models

The success of Microphysiological Systems (MPS) depends heavily on the quality and reproducibility of biological materials. This presentation highlights the need for well-characterized biological resources to produce reliable, translatable MPS data. It will cover ATCC's efforts, including annotated cancer organoid collections, standardized validation methods, and protocol harmonization, which together establish a strong biological foundation to advance MPS technology in research and drug development.

講演

2

日本の MPS 開発の今と、社会実装に向けた布石



伊藤 弓弦 先生 (筑波大学 生命環境系 教授)

新規モダリティ多様化や動物実験削減に向けた動きに伴い、医薬品開発プロセスにおける Microphysiological Systems (MPS) への期待は高まりつつある一方で、COU に合致した MPS を確立 / 運用する上で、考慮すべき課題が多岐にわたることも明らかになってきた。
本講演ではこれまでの 10 年の国内外における動向を振り返り、特に国際標準の観点も加えて、今後の展開に関して議論したい。

In Vitro Models
MPS
Organoids
Organ-on-Chip

申込み

期限 10月6日(火)

ご案内メールの申し込み[フォーム](#)より
※満席になり次第、締め切らせていただきます

注意
事項

講演 1 は英語、講演 2 は日本語での実施となります。
会場の設備の都合上、本セミナーの参加は 80 名程度の条件を設けさせていただきます。
競合他社様の場合に参加をお断りさせていただく場合がございます。予めご了承ください。

住商ファーマインターナショナル株式会社

創薬支援部 新規モダリティ支援グループ TEL : (03)5220-1560 Email : alliance@summitpharma.co.jp
本社 : 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋一丁目2番2号 住友商事竹橋ビル 12 階